

平成 28 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	建築計画 I	担当教員	今田太一郎
学年学科	3 年 建築学科	通年	必修 2 単位
学習・教育目標 (D-4) 100%			
授業の目標と期待される効果： 空間計画の技法および各建築物の用途に応じた計画理論とそれに関連する計画技法を修得することによって、建築物を設計するための基礎となる知識を身につける。具体的には以下の項目を目標とする。 ①建築計画の概念およびプロセスの修得。 ②基本的な空間の計画技法の修得 ③建築施設計画に関する計画理論・技法の修得。 ④建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術の修得		成績評価の方法： 中間試験 200 点+期末試験 200 点とし、総得点率 (%) によって成績評価を行なう。また、授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の 1～10% を減じた値で評価する。 達成度評価の基準： 成績評価の重みは、授業時間数に比例し、①：②：③：④＝1：1：1：1 とする。 ① 建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題が 6 割以上できる。 ② 空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題が 6 割以上できる。 ③ 各施設計画を行う際に基本となる理論とおよび技法に関する説明問題が 6 割以上できる。 ④ 建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術の修得が 6 割以上できる。	
授業の進め方とアドバイス： 建築計画・設計を進める上での基礎となる、「建築計画の概念とプロセス」・「空間の計画技法」を最初に学習した後、建築設計製図 I の課題に対応する各施設の計画の技法について学習する。			
教科書および参考書：コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編 丸善）			
授業の概要と予定：前期 事務所、集合住宅			AL のレベル
第 1 回：建築計画の概念とプロセス			
第 2 回：空間計画の技法（空間構成の考え方と構成手法）			
第 3 回：独立住宅の計画 1			
第 4 回： ” 2			C
第 5 回：図書館の計画 1			
第 6 回： ” 2			
第 7 回： ” 3			C
第 8 回：中間試験			
第 9 回：学校の計画 1（学校教育および、建築の歴史の変遷）			
第 10 回：学校の計画 2（教育課程と運営方式）			
第 11 回：学校の計画 3（全体計画）			C
第 12 回：学校の計画 4（教室の計画）			C
第 13 回：劇場の計画 1（プロセニウム劇場の成立にいたる歴史と空間の変化）			
第 14 回：劇場の計画 2（プロセニアムの形式）			
期末試験			C
第 15 回：劇場の計画 3（オープンステージの形式）			

授業の概要と予定：後期		
第16回：集合住宅の計画（集合住宅計画の変遷・計画の課題）		
第17回： " （配置計画の技法・住棟計画の技法）		
第18回： " （住戸近傍空間の計画技法／（住戸計画の技法）		
第19回：集合住宅の計画（事例の分析）		C
第20回：事務所建築の計画（事務所計画の基礎）		
第21回：事務所建築の計画（コアシステム）		
第22回： " （オフィスレイアウト形式）		C
第23回：中間試験		
第24回：建築プログラミング1（プログラミングの概念、プロセス）		
第25回：建築プログラミング2（プログラミングのための思考の技術）		
第26回：建築プログラミング3（プログラミングのためのワークショップ技術）		
第27回：建築プログラミング4（ワークショップ演習1、ランダムインプット）		A
第28回：建築プログラミング5（ワークショップ演習2、KJ法）		A
第29回：建築プログラミング6（ワークショップ演習3、ブレインストーミング）		A
期末試験		
第30回：建築プログラミング7（建築におけるプログラミングの事例）		C

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題が的確（8割以上）にできる。	建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題がほぼ（6割以上）できる。	建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題できない。
②	空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題が的確（8割以上）にできる。	空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題がほぼ（6割以上）できる。	空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題ができない。
③	各施設計画を行う際に基本となる理論および技法に関する説明問題が的確（8割以上）にできる。	各施設計画を行う際に基本となる理論および技法に関する説明問題がほぼ（6割以上）できる。	各施設計画を行う際に基本となる理論および技法に関する説明問題ができない。
④	建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術に関する問題が的確（8割以上）にできる。	建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術に関する問題がほぼ（6割以上）できる。	建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術に関する問題ができない。